

## ● 「とよなかこども読書マップ」

子どもたちが身近なところで本に親しめるよう、市内で本が借りられるところやおはなし会を実施している施設や場所などの情報を集めて「とよなか こども読書マップ」を作成しました。子ども文庫や保育園、幼稚園など49ヶ所の施設や場所を掲載しています。20(2008)年度は1万部を発行して、1歳6か月児健診や子育て支援センター、幼児教育支援センターたんぼぼ等の子どもに関わる市内の施設で配布しました。

## ● 領域ごとの取り組み

領域ごとの全体の事業数と新規事業数とともに、その実施事業数の取り組み状況を一覧にしたものです。(詳しくは13ページ～50ページをご覧ください)

事業の取り組み状況

	全体の事業数／(うち実施計画策定時の新規事業数)	18(2006)年度実施数／(うち新規事業数)	19(2007)年度実施数／(うち新規事業数)	20(2008)年度実施数／(うち新規事業数)	20(2008)年度末現在 未実施事業数／(うち新規事業数)
1 家庭・地域	21／(7)	15／(3)	17／(1)	16／(1)	5／(2)
2 地域の公共施設	34／(9)	28／(5)	29／(2)	31／(1)	3／(1)
3 保育所(園)・幼稚園	23／(0)	23／(0)	23／(0)	22／(0)	1／(0)
4 学校	18／(2)	17／(2)	17／(0)	17／(0)	1／(0)
5 障害のある子どもや外国人の子ども	27／(1)	19／(3)	24／(6)	25／(0)	2／(2)
6 市立図書館	41／(1)	37／(7)	37／(2)	39／(1)	2／(2)
計	164／(41)	139／(20)	147／(11)	150／(3)	14／(7)

新規事業を実施した場合、実施年度の翌年より継続事業とみなします。

平成20年度に「2地域の公共施設」の領域で追加新規事業1事業あり。(全165事業)

## ● 子ども読書活動の評価について

平成19(2007)年度より豊中市子ども読書活動推進連絡協議会およびワーキンググループにて、子ども読書活動をどのように評価するのか、またよりわかりやすいものとするために討議を重ねてきました。自己点検の評価については、子ども読書活動に取り組む中で効果が出るまでに時間がかかること、またその数値の増減だけでは測れないものがあるということから、3つの数値および記述を組み合わせて子ども読書活動の評価を行っています。※1 さらに子ども読書活動の評価を広く市民に知ってもらうために、よりわかりやすい指標が必要であること、また子ども読書活動推進計画にある4つの柱(基本方針)※2 にそのような指標が必要であることから、平成20年度には3つのワーキンググループが合同でワークショップを行い、指標についての洗い出し作業に取り組みました。

ワークショップの作業の中では、「いろんなどころで同じような事業が行なわれている。さまざまな切り口があり、豊中のどこかで子どもたちが本と出合えるきっかけになる」、「同じような取り組みだからこそ連携が必要」などのご意見をいただくなど、今取り組んでいる事業について情報を共有し、全般的に見直す機会ともなりました。

ただ4つの基本方針と個別に関連する取り組み、および豊中市における子ども読書活動を代表する指標は抽出できませんでした。これを受けて推進連絡協議会では、例えば図書館の貸出冊数など、いくつかのきまった指標を子ども読書の指標とするのではなく、前述した3つ数値および記述の組み合わせをわかりやすい表現で表すことになりました。特に実施計画における領域ごとの取り組みについては(※1 ③)、数値のみを一覧にするのではなく、振り返りや次期計画での変更点などもあわせて掲載すること、領域ごとの取り組みの1(家庭・地域における子ども読書活動の推進)から6(市立図書館における子ども読書活動の推進)まで、それぞれの領域の全体的な評価についても文章化する予定です。

### ※1 評価の指標 3つの組み合わせ

- ① 子ども読書活動推進計画実施計画の領域ごとの取り組み(164)の実施数(P. 10参照)
- ② 領域ごとの取り組みの中で集約できたアンケートなどの記述(「サロンに参加して家でも絵本を読むようになった」)などにより、数値であらわせないものを示す
- ③ 領域ごとの取り組みの指標を経年で一覧にしたもの(回数や参加人数など)

### ※2 4つの基本方針

- ① 子どもが読書に親しむ機会の提供と諸条件の整備
- ② 学校図書館の充実
- ③ 子どもの読書に関わる地域社会での連携
- ④ 子どもの読書についての啓発と支援